今も昔も要衝のまち

己斐・己斐上（こい・こいうえ）

［地名の由来］

その昔、この地で休息された神功皇后へ当時の県主が鯉を奉ったところ、喜ばれた皇后が「鯉、鯉」といわれたことから「コイムラ」となったという説と、山と山が近接してできた谷間を昔峡(カヒ)と呼び、己斐の地理がまさにこれにあたるので、カヒが転訛してコイになったという説がある。いずれにしても、「己斐」を「コイ」と読むのは、地元の人でないとかなりむずかしい。

① 己斐旭山神社

マップC－4

西広島駅南西の小高い山の上にある旭山神社は、ふもとから本殿まで198段の階段を登る。本殿には、「己斐」の地名の由来となった県主が神功皇后に鯉を献上する様子を表した絵馬がある。旭山神社が建つ山は、以前は海に突き出した岬の先端であった。このあたりの海が「こいの浦」と呼ばれていたことから、「こいの浦」に築かれた広島城のことを別名「鯉城」というようになったといわれている。

己斐旭山神社の絵馬

② 大石内蔵助の妻子が眠る国泰寺

関ヶ原合戦後、福島正則が広島入城の際、弟である尾張雲興寺の普照を招き、臨済宗安国寺を国泰寺(曹洞宗)と改めた。福島氏の改易後、浅野長晟が広島に入府し、後に国泰寺を浅野家菩提寺とした。この寺には赤穂浪士で有名な大石内蔵助の妻・りくと広島藩士となった子・代三郎の墓がある。

マップB－3

③ 大茶臼山　昔は山城、今は無線台

己斐は昔、厳島神社の神領として栄え、尼子・武田・大内氏の間で争奪の地となる。岩原・平原・立石・柚ノの諸城跡が今も姿を留めている。立石城跡がある大茶臼山山頂には、昭和30年(1955年)に広島統制無線台が設置され、立ち並ぶアンテナは市内のあちこちから今もよく見える。無線台設置当初から17年間は、ふもとの己斐上に無線台中継所があり、ロープウェーで山頂と結び、人と物を移動させていた。

マップB－2

④ 植木のまち己斐

浅野長晟の広島城入府の際に従ってきた植木屋次郎右衛門は、花卉の栽培地を己斐に見つけ、盆栽・造園等の創造育成に努めた。これが己斐の地場産業として定着し、類まれな植木の町「己斐」として発展。現在は、盆栽を苗から育成するのは一部で、鉢上げしたものを入荷して針金をかけて成形し、完成品を維持管理するのが主になっている。

⑤ 己斐橋の橋脚に巨大壁画

マップD－4

平成19年(2007年)3月、新己斐橋の橋脚に16メートルの巨大壁画が登場した。己斐の町の歴史や景観をモチーフに、画家・俳優として活躍する広島県出身のこだまこずえが作成したものである。全国都市再生モデル事業として行われ、落書きの絶えなかった橋脚は、新たな地域の憩いの場として再生された。

⑥ ウォーキングコースいろいろ

己斐・己斐上は、ウオーキングを楽しむ人たちを多く見かける。季節の移り変わりを感じながらまちを散策するには、公民館で配布するマップが役に立つ。